

## 総合講義（I）

責任者・コーディネーター		法科学講座（法歯学・災害口腔医学分野） 熊谷 章子 教授 解剖学講座（機能形態学分野） 藤原 尚樹 教授				
担当講座（分野）		歯学部専門科目担当講座				
対象学年	5	区分・時間数	講義/演習	実習		
期間	通期		前期	132.0時間	—	
			後期	144.7時間	—	

### 学修方針（講義概要等）

4年生までに履修した基礎系科目および臨床系科目の講義と実習を通して、歯科医学の基礎知識を学修してきている。5年生では臨床実習を通してこれまでに習得している科学的な根拠となる基礎知識を確認し、歯科臨床との関わりを理解することが重要である。総合講義（I）では、基礎系科目と臨床系科目との有機的な結びつきを深めることで、臨床実習での専門的知識への理解度を深め、総合的な歯科医学の見識を深めることを目的とする。本講義を通じて、スチューデントデンティストとして臨床実習の実践に必要な知識を中心に講義を行う。

### 教育成果（アウトカム）

臨床実習において診療参加型実習を実践している中で、科学的な根拠をもとに統合された知識、技能、態度を有し、全身的、心理的、社会的状況に対応可能な総合的な診療を実践するために、歯科医学臨床に直結する内容で今までに学んだ専門分野の知識を振り返り、知識と技能の融合を行う。

（関連するディプロマポリシー：1、2、5、7、8、9）

### 到達目標（SBOs）

临床上必要な歯科医学および口腔衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識を習得する。全体として下記を到達目標とするが、それぞれの講義毎の到達目標は日程表に記す。

- 1) 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズムを説明できる。
- 2) 社会と歯科医療の仕組みを説明できる。
- 3) 健康管理・増進に関わる取り組みを説明できる。
- 4) 人体の正常構造と機能を説明できる。
- 5) 人体の発生・成長・発達・加齢変化を説明できる。
- 6) 主要な疾患と障害の病因と病態を説明できる。
- 7) 全身の症候、口腔・顎顔面領域の症候を説明できる。
- 8) 全身的疾患に関連する口腔・顎顔面領域の症候を説明できる。
- 9) 薬物に関連する口腔/顎顔面領域の症候を説明できる。
- 10) 診察の基本事項を説明できる。
- 11) 検査・臨床の判断の基本を説明できる。
- 12) 歯科材料の使用方法を材料の基礎的性質と結びつけて説明できる。
- 13) 成長・発育に関連した疾患および病態に関連する治療方法を説明できる。
- 14) 歯・歯髄・歯周組織の疾患に関連する治療方法を説明できる。
- 15) 顎・口腔領域の疾患に関連する治療方法を説明できる。
- 16) 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害に関連する治療方法を説明できる。
- 17) 配慮が必要な高齢者・有病者・障害者などに関連した疾患・病態・予防ならびに歯科診療を説明できる。
- 18) 歯科疾患の予防・管理を説明できる。

## 事前事後学修の具体的内容及び時間

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、第4学年までに修了している各系統講義で用いた学修資料（教科書、レジメ等）や事前にWeb Classにアップされた講義資料等を用いて事前学修を行うこと。講義終了後は、教科書や講義資料等を活用し、事後学修を行うこと。各講義に対する事前事後学修の時間は平均75分を要する。本内容は全講義に対して該当するものとする。

（事前学修：平均30分を要する 事後学修：平均45分を要する）

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：解剖学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>印象採得に関わる解剖学</b>  印象採得時に理解しておくべき口腔内の構造について理解する。	1. 印象採得時に注意すべき解剖学的ランドマークとリリースする構造の解剖学的背景について説明できる。 2. 口腔底、下顎骨、口蓋～口蓋帆の構造と裏打ちする筋の走行や関連する組織について説明できる。 3. 咀嚼筋の走行、機能と口腔内の構造の関係性について説明できる。 [必修-4-A-e, 総論Ⅱ-4-A, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-A-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 事前学修：「口腔解剖学第2版 第19章 義歯と筋」を読み概要をまとめると共に、口腔内の解剖学的特徴・咀嚼筋・口蓋帆の筋の走行について復習しておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義の内容を元に印象採得において注意すべき口腔内の構造と、それらを裏打ちする骨、筋及び関連組織との関係などについてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
講義	5/19 (火)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>歯の形態と排列、咬合</b>  歯の正常形態と好発する異常形態、歯の排列と咬合の関係について理解する。	1. 前歯部の上顎・下顎の歯の形態的特徴から咬合について説明できる。 2. 小臼歯～大臼歯部の上顎・下顎の形態的特徴から咬合について説明できる。 3. 歯の排列の特徴、正常な咬合関係について説明できる。 [必修-4-A-e, 5-U-a, 総論Ⅱ-5-A, 6-I-a, c, ウ-a, 7-E, 8-A, イ, エ, IV-2-A, イ, ウ, 各論Ⅰ-2-A, イ] 事前学修：永久歯と乳歯、各歯の解剖学的特徴についてまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：各歯の咬頭数、歯根数、根管数や各歯の形態的特徴及び好発する異常形態についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度

講義	7/14 (火)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>口腔顎顔面の成長と加齢変化</b>  鼻上顎複合体の成長と関連する構造、老化や歯の喪失に伴う顎骨の変化について理解する。	1. 頭蓋縫合部と関連する成長について説明できる。 2. 上顎骨と下顎骨の成長における骨添加と骨吸収の部位について説明できる。 3. 歯の喪失や加齢に伴う顎骨の変化について説明できる。 <b>[必修-4-ア-e, 5-ウ-b, 総論Ⅱ-8ア-b, ウ-a, b]</b> 事前学修：口腔解剖学第2版（医歯薬出版）の第16章加齢と歯の喪失に伴う顎骨の変化について読んで要点をまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：講義の内容を元に頭蓋の成長に伴う変化と顎骨の加齢変化についてまとめノートを作成すること。所要時間45分程度
----	-------------	---	---------------------------	---	---

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 <b>[必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2, 各論Ⅰ-2-ア, イ]</b> 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間10分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/1 (火)	4	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>唾液腺の構造と支配神経</b>  大唾液腺の解剖学的特徴と支配神経について理解する。	1. 大唾液腺の位置と手術時に注意すべき周辺の解剖学的構造について説明できる。 2. 唾液腺の分泌を調節する支配神経、関連する神経節について説明できる。 3. 唾液腺の分泌を調節する神経の走行経路と障害を関連づけて説明できる。 [必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 事前学修：「口腔解剖学第2版 第15章 PP178-184」を読み、唾液腺の解剖学的特徴、支配神経とその走行経路についてまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：大唾液腺を支配する自律神経の走行経路について模式図を作成すると共に、各唾液腺の解剖学的特徴を簡潔に整理すること。所要時間45分程度
講義	1/12 (火)	1	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>嚥下と筋</b>  口唇、頬、舌、口蓋帆及び頸部の筋の走行とそれぞれの機能的関連性から、臨床における嚥下機能を解剖学的に理解する。	1. 舌骨上筋群と舌骨下筋群の構成と機能及び神経支配を説明できる。 2. バクシネータメカニズムについて説明できる。 3. 舌筋の種類と機能及び神経支配を説明できる。 4. 口蓋帆の筋の機能と支配神経を説明できる。 5. 喉頭周辺の構造と嚥下時の動きを説明できる。 6. 嚥下のステージと関与する筋群を順序立てて説明できる。 [必修-4-ア-e, 総論Ⅱ-4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 6-ア-a, b, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, IV-2-エ, オ, カ, キ, ク] 事前学修：嚥下5期の各ステージと関係する筋肉について「口腔解剖学第2版 第17章 咀嚼と嚥下」を読み概要をまとめておくこと。講義で重要事項について資料に書き込みながらフィードバックする。所要時間30分程度 事後学修：嚥下5期の各ステージごとに関係する筋とその支配神経、機能との関係について簡潔にまとめること。所要時間45分程度

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	藤原尚樹教授 (解剖学講座 機能形態学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	1. 歯科医師として必要な頭頸部の肉眼解剖学領域について臨床的視点も含め、知識を整理し、重要項目を説明できる。 2. 歯の正常形態について好発する異常形態と共に整理し、各歯の鑑別をするための重要項目を説明できる。 3. 各自の弱点領域を見つけることができる。 [必修-4-ア-e, 5-ウ, エ, 総論Ⅱ-1-ア, イ, ウ-a, エ-a, オ-a, b, キ-a, ク-b, c, d, e, ケ-a, 4-ア, イ, ウ, エ, オ, カ, キ, 5-ア, 6-ア-a, b, c, イ-a, c, ウ-a, エ, オ, カ, 7-ウ, エ, 8-ア, イ, ウ-a, エ, IV-2, 各論 I -2-ア, イ] 事前学修：試験を通して自分の理解力不足を感じた領域を抽出しておくこと。所要時間10分程度 事後学修：講義資料を元に弱点領域の項目を具体的に把握すると共に、学修内容の要点を教科書、講義資料などで振り返り整理し、理解を深めること。所要時間20分程度

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：組織学・発生学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	4	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<b>上皮の総括的理解～その構造と機能破綻を考える ＜口腔疾患と全身1＞</b>  上皮の基本的な構造・機能とその破綻によって引き起こされる疾患との関連を理解できるようになる。	1. 上皮の基本的構造が説明できる。 2. 上皮の細胞と細胞間接着装置について説明できる。 3. 上皮に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる。 4. 細胞間接着装置に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる <b>[必修4-ア-d, 総論II-1-ア, 総論III-2-ア, 総論IV-1-イ, 各論III-1-ク-b]</b>  事前学修：細胞間接着装置・細胞外基質に関連した疾患について、最新口腔外科学第5版を用いて事前に学修しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。
講義	6/9 (火)	2	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<b>結合組織の総括的理解～顎骨の発生・成長～その破綻による先天性疾患を考える ＜口腔疾患と全身2＞</b>  結合組織の正常発生と加齢にともなう変化、異常について説明できるようになる。	1. 結合組織の基本的構造が説明できる。 2. 結合組織の細胞と細胞外基質について説明できる。 3. 細胞外基質に異常を来す疾患を列挙して、その病因を説明できる骨の発生について説明できる。 4. 顎骨の発生について説明できる。 5. 大理石病、鎖骨頭蓋異形成症などの全身的な症状とともに、顎顔面に異常が見られる疾患やその原因について組織学的知識と連携させて説明できる。 <b>[必修4-ア-d, 必修5-ウ, エ, 総論II-1-ア, イ, 総論II-8-ア、ウ, 総論III-2-ア-e, 総論IV-2-オ, 各論-1]</b>  事前学修：最新口腔外科学第5版と小児の口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常についての疾患を事前に学修しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。

講義	7/14 (火)	3	池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<p><b>顎顔面発生の総括的理解～顎顔面の発生・成長～その破綻による先天性疾患を考える&lt;口腔疾患と全身3&gt;</b></p> <p>顎顔面の正常発生と加齢にともなう変化、異常について説明できるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鰓弓由来の骨、筋の発生と神経支配について説明できる。</li> <li>2. 咽頭溝、咽頭嚢由来の器官について説明できる。</li> <li>3. 甲状腺の発生過程とその異常について理解する。</li> <li>4. 舌の発生過程とその異常について理解する</li> <li>5. 神経堤に由来する細胞から形成される顎顔面領域の組織について説明できる。</li> <li>6. 頭蓋の形成について説明できる。</li> <li>7. 顔面の形成について説明できる。</li> <li>8. 一次口蓋と二次口蓋の形成機序について説明できる。</li> <li>9. 顔面領域の先天異常の発生機序を発生過程に基づき説明できる。</li> </ol> <p><b>[必修5-ア-a, 総論II-8-ア, 総論III-2-ア-a, 各論I-1, 各論III-1-ア]</b></p> <p>事前学修：最新口腔外科学第5版と小児の口腔科学4版を用いて顎骨の形態異常についての疾患を事前に学修しておくこと。所要時間45分程度。</p> <p>事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。</p>
----	-------------	---	--------------------------------	--	---

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	池崎晶二郎講師 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<p><b>総合講義 (I)</b> <b>前期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。</p> <p><b>[出題された問題による]</b></p> <p>事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。</p> <p>事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/8 (火)	1	原田英光教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<b>発生からみた歯の構造の正常と異常 I</b>  歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようにする。 歯の先天性疾患について説明できるようにする。	1. 歯胚を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯の発生の過程について説明できる 3. 歯の数や歯冠の形態などの遺伝子疾患に関わる病因について説明できる。 <b>[必修5-ウ,エ, 総論II-5-ア, イ,-8-ア,イ、各論I-2, 3-ア]</b>  事前学修：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学4版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。
講義	11/10 (火)	1	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<b>発生からみた歯周組織の構造の正常と異常</b>  歯の構造についてそれぞれの成因から説明できるようにする。歯の先天性疾患について説明できるようにする。	1. 歯周組織を構成する組織と形成細胞の分化・基質形成過程について説明できる。 2. 歯根の発生と歯根の形態異常について説明できる。 3. 歯周組織に関わる疾患に関わる病因について説明できる。 <b>[必修5-ウ,エ, 総論II-5-ア, イ,-8-ア,イ, ウ、各論II-3-ア]</b>  事前学修：歯の異常に関連した疾患について事前に小児の口腔科学4版を用いて学修して疑問点を抽出しておくこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間30分程度。所要時間45分程度。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	大津圭史教授 (解剖学講座 発生生物・再生医学分野)	<b>総合講義 (I) 後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：生理学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/21 (火)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>顎口腔機能とその検査 (1)</b>  歯科臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 顎口腔機能検査の種類を列記する。 2. 咀嚼/嚥下を説明できる。 3. 発声・構音検査を説明できる。 4. 発声・構音機能を説明できる。 [総論Ⅱ-6-ウエオ, 総論Ⅵ-1-イ] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	6/9 (火)	3	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>顎口腔機能とその検査 (2)</b>  歯科臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 唾液分泌機構を説明できる。 2. 唾液検査を列記できる。 3. 分泌に関連する薬剤を列記できる。 [総論Ⅱ-6-カ, 総論Ⅵ-1-イ] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	6/30 (火)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>生体機能機能とその検査</b>  臨床において用いられる顎口腔機能検査の実際とその機能の関連を知る。	1. 生体機能検査の種類を列記する。 2. 呼吸/心機能を説明できる。 3. 腎機能検査を説明できる。 4. 泌尿器の機能を説明できる。 [総論Ⅱ-1, 総論Ⅵ-4-ア] 事前学修：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 事後学修：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/29 (火)	1	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>内分泌機能と内分泌疾患</b>  内分泌機能と病態を学び、他職種連携や在宅での診療を視野に有病者の状態を理解出来る。	1. 外分泌と内分泌を説明出来る。 2. ホルモンの種類を列記できる。 3: ホルモンの作用を説明できる。 4: フィードバックを説明できる。 5. 内分泌疾患を説明できる。 <b>[総論Ⅱ-1-ケ]</b> <b>事前学修</b> ：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 <b>事後学修</b> ：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。
講義	11/17 (火)	2	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>身体機能と中枢神経系</b>  中枢神経系について学び、関連する各種生理学的機能を理解する。	1. 中枢神経系を区分できる。 2. 中枢神経系の構造を説明できる。 3: 生理機能と中枢神経系の関連を説明できる。 <b>[総論Ⅱ-1-ク]</b> <b>事前学修</b> ：DESS(自習)を活用し、該当する国家試験過去問題を説くこと。所要時間30分。 <b>事後学修</b> ：該当する過去問題を再度説明しながら説くこと。所要時間45分。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	黒瀬雅之教授 (生理学講座 病態生理学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> <b>事前学修</b> ：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 <b>事後学修</b> ：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：生化学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/21 (火)	1	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>唾液の生化学</b> 唾液の成分と作用について理解する。	1. 唾液成分を列挙し、その作用を説明できる。 2. 唾液中の酵素の働きを説明できる。 3. 唾液中の抗菌因子の作用機序を説明できる。 <b>[必修-4-ア, 総論Ⅱ-6-カ]</b>  事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	6/2 (火)	4	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>血液の生化学</b> 血液の成分と機能について理解する。	1. 血球細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる。 2. 血漿成分の働きや疾患における変化について説明できる。 3. 血液凝固因子の特徴ならびに血液凝固と線溶の過程を説明できる。 4. ヘム・ポルフィリン代謝を説明できる。 <b>[必修4-ア, 必修-9-エ, 総論Ⅵ-3-ア]</b>  事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	7/7 (火)	2	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>ホルモンの生化学</b> ホルモンの構造と作用機序を理解する。	1. 細胞膜受容体と細胞内受容体について説明できる。 2. ペプチドホルモンとステロイドホルモンの作用機序を説明できる。 3. プロテインキナーゼによる細胞内情報伝達機構を概説できる。 <b>[必修-4-ア, 総論Ⅱ-1-ケ]</b>  事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/15 (火)	1	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>炎症の生化学</b>  炎症調節細胞や分子の作用を理解する。	1. 炎症関連細胞を列挙し、それらの働きについて説明できる 2. 代表的なケミカルメディエーターを列挙し、その作用を説明できる。 3. アラキドン酸カスケードを説明できる。 <b>[必修-6-ア-d, 総論Ⅲ-1-カ]</b>  事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。
講義	12/1 (火)	4	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>骨の生化学</b>  骨の成分や骨代謝について理解する。	1. 硬組織を構成する成分と細胞の役割を説明できる。 2. 破骨細胞による骨吸収を分子レベルで説明できる。 3. 骨形成や骨吸収と体内カルシウム動態との関連性について説明できる。 <b>[必修-4-ア, 総論Ⅱ-8-ウ]</b>  事前学習：2年次の講義内容やコア歯学演習の講義資料を見直して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で示された重要な項目を書き出し講義資料や教科書等で調べて理解を深めること。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	帖佐直幸准教授 (生化学講座 細胞情報科学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：微生物学・免疫学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/2 (火)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>1. 微生物学総論</b> <b>2. 細菌学各論</b>  微生物の性状と病原細菌による感染症およびその病原因子を理解する。	1. 微生物の構造・性状を説明できる。 2. 感染の概念と感染症を説明できる。 3. 病原細菌の性状を説明できる。 <b>[A-4-1全般]</b> 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	6/23 (火)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>1. ウイルス学各論</b> <b>2. 免疫学</b>  ウイルスによる感染症およびその病原因子を理解する。 生体防御の仕組みを理解する。	1. ウイルスの性状を説明できる。 2. 免疫応答に関与する器官と細胞を説明できる。 3. 微生物の認識機構と排除機構を説明できる。 4. 自然免疫と獲得免疫を説明できる。 <b>[A-4-1全般、A-4-2全般]</b> 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。
講義	7/21 (火)	1	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>1. 口腔細菌</b>  口腔のフローラ、口腔細菌の性状およびう蝕・歯周疾患の成立・発症機序を理解する。	1. 口腔の常在微生物叢を説明できる。 2. 口腔微生物の性状を説明できる。 3. う蝕と歯周病の成立機序を説明できる。 <b>[A-4-1全般、A-4-2全般、D-3-1-3-1、D-3-2-2, 3, 4、D-3-1-10-2、D-5-2-3-1]</b> 事前学習：到達目標の内容について各自調べておくこと。所要時間30分程度。 事後学習：当日配布資料にて講義内容を復習し、その概要を説明できるようになること。所要時間45分程度。

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	三浦利貴助教 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	1	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>微生物学・免疫学領域 必修問題, 一般問題</b>  模擬試験出題問題などを用い、微生物学・免疫学領域の必修問題, 一般問題について具体的出題例を参考に理解する。	1. 微生物学領域の必修問題, 一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題, 一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 <b>[&lt;必修&gt;4-A-g, イ、6-A-e, f、9-E-e、&lt;総論&gt;II-2, 3、III-1-キ, ク、VI-3-A-e]</b> 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。
講義	12/1 (火)	1	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>微生物学・免疫学領域 の苦手領域の補完</b>  問題演習を通じ苦手な領域を理解し、問題解決に必要な基本的な考え方を理解する。	1. 微生物学領域の必修問題, 一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 2. 免疫学領域の必修問題, 一般問題に求められる基本的な考え方を説明できる。 3. 提示された課題の学習を通して、自ら新たな問題点を見出すことができる。 4. 提示された課題についての学習方法を説明できる。 <b>[&lt;必修&gt;4-A-g, イ、6-A-e, f、9-E-e、&lt;総論&gt;II-2, 3、III-1-キ, ク、VI-3-A-e]</b> 事前学習：過去5年間の国家試験の微生物学・免疫学に関連する問題について学習しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。所要時間45分程度。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	石河太知教授 (微生物学講座 分子 微生物学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：薬理学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/19 (火)	4	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>薬理学総論復習</b>  薬力学（用量反応曲線）、薬物動態、治療薬物モニタリング、臨床試験、薬事関連法規（医薬品医療機器等法）	1. 薬力学、薬物動態学、臨床薬理学を説明できる。 2. 薬事関連法規を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	6/23 (火)	4	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>鎮痛薬</b>  NSAIDs、麻薬性鎮痛薬、神経障害性疼痛治療薬、漢方薬（立効散）	1. 鎮痛薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	7/14 (火)	4	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>抗血栓薬、骨粗鬆症治療薬</b>  抗血小板薬、抗凝固薬、抗血栓療法患者の抜歯に関するガイドライン ビスホスホネート製剤、抗RANKL抗体、顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2023	1. 抗血栓薬等の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験に関連する内容を復習する。	1. 関連する国家試験問題を正しく解答できる。 [必修-11-コ、総論Ⅶ-8] 事前学修：前期講義の内容を復習する。 事後学修：解説内容を復習する。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	4	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>抗微生物薬</b>  抗菌薬、抗真菌薬、抗ウイルス薬、歯性感染症ガイドライン	1. 抗微生物薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。
講義	12/22 (火)	2	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>抗腫瘍薬</b>  化学療法薬、分子標的治療薬、漢方薬(半夏瀉心湯薬)、口腔癌ガイドライン	1. 抗腫瘍薬の作用と有害反応、臨床適応を説明できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：授業内容を教科書等で予習する。所要時間30分。 事後学修：授業内容を復習する。所要時間45分。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	中村正帆教授 田村晴希講師 (薬理学講座 病態制御学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験に関連する内容を復習する。	1. 関連する国家試験問題を正しく解答できる。 [必修-11-コ、総論VII-8] 事前学修：後期講義の内容を復習する。 事後学修：解説内容を復習する。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：病理学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/21 (火)	4	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	<b>口腔粘膜疾患</b> 臨床症状からみた口腔粘膜疾患の病理学的特徴を理解する。	1. 水疱性病変について説明できる。 2. 赤色病変について説明できる。 3. 潰瘍性病変について説明できる。 4. 白色病変について説明できる。 5. 黒色病変について説明できる。 6. 舌炎・口唇炎について説明できる。 7. ウイルス性・細菌性感染症について説明できる。 <b>[必修6-4-m, 総論Ⅲ-2-7-c, 各論Ⅲ-1-7]</b>  事前学修：新口腔病理学p143-161, p283-291を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	6/2 (火)	3	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<b>嚢胞</b> 歯原性嚢胞および非歯原性嚢胞の病理学的特徴を理解する。	1. 発育性嚢胞について説明できる。 2. 炎症性嚢胞について説明できる。 3. 顎骨内に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 4. 軟組織に発生する非歯原性嚢胞について説明できる。 <b>[必修6-4-k, 総論Ⅲ-1-7-a, b, c, 各論Ⅲ-1-I-a, b]</b>  事前学修：新口腔病理学p182-195を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	7/21 (火)	2	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<p><b>唾液腺の非腫瘍性病変と唾液腺腫瘍</b></p> <p>唾液腺の非腫瘍性病変と腫瘍性病変について病理学的特徴を理解する。</p>	<p>1. 唾液腺の発育異常について説明できる。</p> <p>2. 唾液腺の退行性・進行性病変について説明できる。</p> <p>3. 唾石症・唾液腺の嚢胞について説明できる。</p> <p>4. 唾液腺の炎症性疾患について説明できる。</p> <p>5. 唾液腺の自己免疫疾患について説明できる。</p> <p>6. 唾液腺の良性上皮性腫瘍について説明できる。</p> <p>7. 唾液腺の悪性上皮性腫瘍について説明できる。</p> <p>8. 唾液腺の非上皮性腫瘍について説明できる。</p> <p><b>[必修6-4-n, 総論Ⅲ-2-7-f, 各論Ⅲ-3-7]</b></p> <p>事前学修：新口腔病理学p257-282を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
----	-------------	---	---------------------------	--	---

**前期：解説講義**

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<p><b>総合講義 (I)</b> <b>前期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。</p> <p><b>[出題された問題による]</b></p> <p>事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/4 (水)	1	入江太朗教授 (病理学講座 病態解析学分野)	<p><b>歯原性腫瘍と非歯原性腫瘍</b></p> <p>歯原性・非歯原性腫瘍の病理学的特徴を理解する。</p>	<p>1. 良性歯原性腫瘍について説明できる。 2. 悪性歯原性腫瘍について説明できる。 3. 線維性病変について説明できる。 4. 骨形成性病変について説明できる。 5. 軟骨形成性病変について説明できる。 6. 巨細胞性病変について説明できる。 7. 円形細胞腫瘍について説明できる。 <b>[必修6-7-g, 総論Ⅲ-2-7-e, 各論Ⅲ-2-カ]</b></p> <p>事前学修：新口腔病理学p196-233を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
講義	12/22 (火)	4	佐藤泰生講師 (病理学講座 病態解析学分野)	<p><b>腫瘍</b></p> <p>正常細胞が自律性をもった過剰増殖を示すようになった状態を理解する。</p> <p><b>顎口腔の発育異常、口腔領域に徴候をみる症候群</b></p> <p>顎口腔の発育異常や口腔領域に徴候をみる症候群の病因と病態について理解する。</p>	<p>1. 腫瘍の定義と分類について説明できる。 2. 組織学的分類と命名法について説明できる。 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 4. 腫瘍の生物学について説明できる。 5. 腫瘍の発生について説明できる。 6. 宿主に及ぼす腫瘍の影響について説明できる。 7. 良性腫瘍の組織型について説明できる。 8. 悪性腫瘍の組織型について説明できる。 9. 口腔顎顔面に異常を示す奇形症候群について説明できる。 10. 口腔領域に徴候をみる症候群について説明できる。 <b>[A-5-6-1~6, D-3-1-1, D-3-1-10-5]</b></p> <p>事前学修：新口腔病理学p132-142, p229-238, p331-340を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	入江太朗教授 (病理学講座 病態解 析学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯科理工学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/28 (火)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	<b>印象用材料/模型用材料</b>  歯科臨床での印象採得、模型作製の材料学的基礎を確認する。	1. 歯科臨床での印象採得に用いる印象材の選択基準を説明できる。 2. 印象材の種類とタイプを説明できる。 3. 印象材の成分、組成と硬化機構を説明できる。 4. 印象採得の方法を説明できる。 5. 模型材の種類と特徴を説明できる。 <b>[必修11セa, c, d、総論VIII3ア, イ、総論VIII4ア、各論IV3イ, 4イ, 5イ]</b>  事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：臨床場面に応じて印象採得の方法、印象材の選択、その選択理由を説明できるようにする（30分程度）。
講義	5/26 (火)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	<b>義歯用材料</b>  義歯用材料（アクリルレジン）およびフレームワークに使用される材料およびその製作法を学ぶ。	1. 歯科臨床での義歯用材料の選択基準を説明できる。 2. 義歯用材料の種類を説明できる。 3. 義歯用材料の成分および性質を説明できる。 4. 義歯用材料の取扱い上の注意点を説明できる。 5. 義歯の製作過程を説明できる。 6. 義歯のフレームワークに使用する材料の性質を説明できる。 <b>[必修11セf、総論VIII6ア, イ、総論VIII7ア、各論IV4ウ, 5ウc]</b>  事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：義歯床用材料とフレームワークに使用する材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。

講義	6/16 (火)	1	武本真治教授 (医療工学講座)	<p><b>歯冠修復材とその製作過程1</b></p> <p>歯科臨床での歯冠修復材の材料学的基礎とその製作方法の特徴を確認する。特に、陶材焼き付け金属冠とレジン前装冠の製作方法の違いを確認する。</p>	<p>1. 歯科臨床での歯冠修復材の選択基準を説明できる。</p> <p>2. 歯冠修復材の種類を説明できる。</p> <p>3. 歯冠修復材の特徴を説明できる。</p> <p>4. 歯冠修復物の製作方法を説明できる。</p> <p>5. レジン支台築造で用いる材料の特性を説明できる。</p> <p><b>[必修11セf、総論VIII16イ、ウ、エ、総論VIII17イ、ウ、エ、各論IV3ウ]</b></p> <p>事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。</p> <p>事後学修：鋳造冠、陶材焼付金属冠、レジン前装冠、CAD/CAM冠の材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。</p>
----	-------------	---	--------------------	--	---

**前期：解説講義**

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 (医療工学講座)	<p><b>総合講義（I） 前期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。</p> <p><b>[出題された問題による]</b></p> <p>事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。</p> <p>事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	3	武本真治教授 (医療工学講座)	<p><b>補綴装置とその製作過程</b></p> <p>歯科臨床での補綴装置の材料学的基礎とその製作方法の特徴を確認する。特に、デジタル技術を応用した補綴装置の製作方法の違いを確認する。</p>	<p>1. 歯科臨床での補綴装置の選択基準を説明できる。 2. 補綴装置に用いる材料の種類を説明できる。 3. デジタル技術で製作する補綴装置を列挙できる。 4. 切削加工及び付加製造で製作する補綴装置の製作方法を説明できる。</p> <p><b>[必修11セf、総論VIII6イ、ウ、エ、総論VIII7イ、ウ、エ、各論IV3ウ]</b></p> <p>事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：CAD/CAM冠および付加製造用材料の材料学的特徴とその製作過程をまとめる（30分程度）。</p>
講義	1/12 (火)	4	武本真治教授 (医療工学講座)	<p><b>合着と接着</b></p> <p>接着性レジンセメントとコンポジットレジンを用いた直接修復の材料学的基礎を確認する。</p>	<p>1. コンポジットレジンの構成、成分を説明できる。 2. 直接修復に関する材料の構成を説明できる。 3. 間接修復用コンポジットレジンの構成と成分を説明できる。 4. 支台築造材の特徴を説明できる。 5. 歯冠修復物、補綴装置を強固に装着する方法を説明できる。</p> <p><b>[必修11セh、総論VIII5アa、総論VIII8、総論VIII9、各論IV3イa]</b></p> <p>事前学修：2・3年次に使用した教科書（スタンダード歯科理工学、新編歯科理工学）、講義要旨、講義ノートに目を通して講義に臨むこと（30分程度）。 事後学修：接着応用した修復装置・補綴装置の装着方法をまとめる。直接修復での表面処理をまとめる（30分程度）。</p>

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	武本真治教授 (医療工学講座)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：法歯科医学・災害歯科医学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	5/12 (火)	2	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	<b>災害発生時の病院初動</b>  発災直後に歯科医師と しての適切な対応がで きる。	1. 業務遂行計画 (BCP) の概念を説 明できる。 2. 歯科治療中に災害が発生した際の 適切な対応を説明できる。 3. 発災後安全に患者誘導ができる。 4. 頭頸部領域の災害傷病者に対応で きる。 5. ロールプレイングを通して、発 災後超急性期から急性期での医療機 関における歯科医師の役割と多職種 連携による災害対応を理解するこ とができる。 【必修2-ウ-a、b】【総論 I-1-エ-i、 j】【総論 I-1-オ-h】  事前学修：「災害歯科医学」p26-91 を読み、疑問点を抽出しておくこ と。所要時間30分程度。 事後学修：講義で習得した基本的事 項をまとめること。所要時間45分程 度。
講義	6/23 (火)		熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	<b>大規模災害犠牲者対応</b>  災害時の歯科医師の役 割と多職種が連携した 対応について理解でき る。	1. 国際的大規模災害での犠牲者個 人識別方法について理解できる。 2. 犠牲者に対する他職種の役割を 理解できる。 3. ロールプレイングを通して、 多職種と連携した適切で正確な犠牲 者の身元調査方法を理解する。 【C-1-3-2, C-1-3-3, C-1-3-4, C-1- 3-5, C-4-2-1, C-4-2-2, C-4-3-8, C-4-4-1】  事前学修：「災害歯科医学」p93- 101を読み、疑問点を抽出しておく こと。所要時間30分程度。 事後学修：講義で習得した基本的事 項をまとめること。所要時間45分程 度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	12/8 (火)	1	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	<b>ヒトの死</b>  終末期医療、死亡診 断、死因究明・身元調 査制度について理解で きる。	1. 緩和医療と終末期医療について説明できる。 2. アドバンスケアプランニングの意義を説明できる。 3. 在宅医療における看取りについて説明できる。 4. 死亡診断ができる。 5. 死亡診断と死体検案の違いを説明できる。 6. 日本の死因究明・身元調査制度と歯科医師の関わりについて説明できる。 [必修1-ア-a、b、イ-a、b] [必修2-ウ-a、b、c] [総論Ⅰ-1-オ-j] [総論Ⅰ-3-ア-a] [総論Ⅲ-3-ア、イ]  事前学修：法歯科医学p6-16を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：不明点について知識の補充を行うこと。所要時間45分程度。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	熊谷章子教授 (法科学講座 法歯 学・災害口腔医学分 野)	<b>総合講義 (Ⅰ) 後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯内療法学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/9 (火)	1	高満正宜助教 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齶蝕 歯内療法学Ⅰ 検査・診断 根管治療の手順と方法</b>  歯髄の検査・診断と根管治療の手順について理解する。	1. 歯内疾患の診断に必要な検査法を説明できる。 2. 歯内疾患の診断ができる。 3. 検査に必要な器具と使用方法を説明できる。 4. 根管治療の手順と方法が説明できる 5. 根管切削器具のISO規格が説明できる。 6. Ni-Tiロータリーファイルの使用 方法と材料学的観点から見た使用時の注意点を説明できる。 7. 各種手用ファイルの使用方法和根管拡大法を説明できる。 <b>[必修6、11-ケ-c、各論Ⅱ-2-イ-b、c、d]</b>  事前学修：歯髄疾患の検査診断、根管形成について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/29 (火)	2	大塚泰寛助教 相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齶蝕 歯内療法学2</b> <b>歯髄炎</b> <b>根尖性歯周炎</b>  歯髄炎、根尖性歯周炎 について理解する。	1. 歯髄腔の解剖学的特徴を説明できる。 2. 炎症の病態を説明できる 3. 高齢者の歯髄変化が説明できる。 4. 急性化膿性根尖性歯周炎の4期とそれぞれの対応について説明できる。 5. その他の根尖性歯周疾患について説明できる。 6. その他の根尖性歯周疾患の治療法について説明できる。 <b>[各論Ⅱ-2-ア]</b>  事前学修：歯髄炎、根尖性歯周炎について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）で確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/8 (火)	2	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齶蝕 歯内療法学3</b> <b>根管充填</b> <b>根管治療時の偶発症</b> <b>外科的歯内療法</b>  根管充填、偶発症、外科的歯内療法について理解する。	1. 根管充填の目的について説明できる。 2. 根管充填可能な時期について説明できる。 3. 根管充填に使用する器具、材料について説明できる。 4. 根管充填後の根尖周囲組織の治癒機転について説明できる。 5. 根管治療時の偶発症について説明できる。 6. 外科的歯内療法の適応について説明できる。 7. 外科的歯内療法の術式を説明できる。 8. 外科的歯内療法に使用する器具と、器具の使用方法について説明できる。 <b>[各論Ⅱ-2-イ-e, g, j]</b>  事前学修：根管充填と根管治療時の偶発症について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬歯内治療学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：保存修復学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/26 (火)	4	鈴木大平助教 東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齲蝕 保存修復学I</b> <b>齲蝕</b> <b>検査・診断</b> <b>窩洞の分類</b>  齲蝕、齲蝕の検査について理解する。 窩洞の名称、分類について説明できるようになる。	1. エナメル質齲蝕、象牙質齲蝕、根面齲蝕について説明できる。 2. 齲蝕歯質において残すべき歯質、除去すべき歯質について説明できる。 3. 齲蝕検知液の成分、分子量について説明できる。 4. ICDASについて説明できる。 5. 齲蝕の検査法を説明できる。 6. 齲蝕の診断ができる。 7. 急性齲蝕と慢性齲蝕の違いを説明できる。 8. 窩洞の分類を説明できる。 9. 窩洞の具備すべき条件を説明できる。 <b>[必修6-I-a、各論II-1-A-a, b、各論II-1-U-c]</b>  事前学修：齲蝕の検査診断について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	大塚泰寛助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>総合講義（Ⅰ）</b> <b>前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	5	相上雄亮助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齲蝕 保存修復学2 直接修復</b>  コンポジットレジン修復について理解する。修復用のガラスイオノマーセメント、アマルガムについて理解する。	1. コンポジットレジン修復の手順について説明できる。 2. コンポジットレジン修復時の補助法について説明できる。 3. コンポジットレジン修復時に使用するバーと、その使用目的の違いについて説明できる。 4. 従来型、レジン添加型ガラスイオノマーセメントの成分と硬化機序を説明できる。 5. グラスイオノマーセメント修復の手順について説明できる。 6. それぞれの修復方法について比較できる。 <b>[必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ-a]</b>  事前学修：直接修復について、講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	1/12 (火)	3	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>齲蝕 保存修復学3 間接修復(インレー)</b>  メタルインレー、コンポジットレジンインレーについて理解する。	1. 各種インレー修復の窩洞形態の違いについて説明できる。 2. 各種インレーの内面処理の違いを説明できる。 3. 各種インレーの装着時の手順の違いについて説明できる。 4. レジンコーティングの目的、使用材料について説明できる。 <b>[必修11-ケ-b、各論Ⅱ-1-ウ-b]</b>  事前学修：講義ノート、実習書を参照。理解ができない場合は、教科書（医歯薬保存修復学）にて確認する。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	東 兼司助教 (歯科保存学講座 う蝕治療学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯周病学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/23 (火)	2	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<b>歯周病学の基盤形成講義Ⅰ</b>  4年次までに修得した歯周病学の知識を臨床の場で活用できる。	1. 歯周病治療の対象となる歯周組織の病態、診査・診断・治療方法を総合的に説明できる。 [必修6-イ-c, 必修7-イ-d, 必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア・イ・ウ・エ] 事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/7 (火)	4	村井治講師 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<b>歯周病学の基盤形成講義Ⅱ</b>  4年次までに修得した歯周病学の知識（検査・診断）を臨床の場で活用できる。	1. 歯周病の診査・診断を説明できる。 2. 歯周病診査に必要な器具を列挙できる。 3. 歯周病の診断の臨床的意義を説明できる。 [必修7-イ-d, 必修8-キ-c, 必修9-ア-a・b, 必修9-オ-b, 総論Ⅴ-1-ア-イ、総論Ⅵ-1-ア-c, 各論Ⅱ-3-ア-a・b・c・e・g, 各論Ⅱ-3-イ-d・e] 事前学修：3年次で使用したレジメ、講義ノートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	10/27 (火)	2	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<b>臨床実習に即した歯周 病学知識確認 (歯周基 本治療)</b>  歯周病学の臨床実習を 通して修得した知識を 確認する。	1. 応急処置を説明できる。 2. プラークコントロールを説明で きる。 3. SRPを説明できる。 4. 超音波スケーラーを説明でき る。 5. 外傷性咬合を説明できる。 6. 咬合調整, 暫間固定を説明でき る。 7. 象牙質知覚過敏症を説明でき る。 [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9- オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ- a・b、総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア- c, 総論Ⅷ-2-ア-f, 各論Ⅱ-3-ア-d・ e, f各論Ⅱ-3-ウ-a・b] 事前学修：3年次で使用したレジ メ, 講義ノート、臨床実習で提出し たレポートおよび教科書を把握して くること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分で あった箇所について、講義資料や教 科書を用いて知識を整理しておくこ と。所要時間45分程度。
講義	11/24 (火)	3	八重柏隆客員教授  佐々木大輔教授 (歯科保存学講座 歯周療法学分野)	<b>臨床実習に即した歯周 病学知識確認 (歯周外 科治療)</b>  歯周病学の臨床実習を 通して修得した知識を 確認する。	1. 切除療法を説明できる。 2. 組織付着療法を説明できる。 3. 歯周組織再生療法を説明でき る。 4. 歯周形成外科を説明できる。 [必修8-キ-c, 必修9-ア-a, 必修9- オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ- a・b、総論Ⅵ-1-ア-c, 総論Ⅶ-2-ア- c, 総論Ⅷ-11-エ・オ, 各論Ⅱ-3-ウ- d・e・f] 事前学修：3年次で使用したレジ メ, 講義ノート、臨床実習で提出し たレポートおよび教科書を把握して くること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分で あった箇所について、講義資料や教 科書を用いて知識を整理しておくこ と。所要時間45分程度。

講義	1/5 (火)	1	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<p><b>臨床実習に即した歯周病学知識確認(薬物療法, 口腔機能回復治療, メインテナンス, SPT)</b></p> <p>歯周病学の臨床実習を通して修得した知識を確認する。</p>	<p>1. 薬物療法を説明できる。 2. 口腔機能回復治療を説明できる。 3. メインテナンスを説明できる。 4. SPT (Supportive Periodontal Therapy) を説明できる。 [必修9-オ-b, 必修11-ケ-d, 総論Ⅲ-1-ウ-a・b, 総論Ⅵ-1-ア-c, 各論Ⅱ-3-ウ-h・i・j]</p> <p>事前学修：3年次で使用したレジメ, 講義ノート, 臨床実習で提出したレポートおよび教科書を把握してこること。所要時間30分程度。 事後学修：講義で理解が不十分であった箇所について, 講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。</p>
----	------------	---	---------------------------------	---	--

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	鈴木啓太助教 (歯科保存学講座 歯 周療法学分野)	<p><b>総合講義 (I) 後期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。 [出題された問題による]</p> <p>事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：有床義歯補綴学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/26 (火)	2	米澤 悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>有床義歯学1 全部床義歯学①</b>  全部床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する	1. 全部床義歯の各操作の目的を説明出来る。 2. 全部床義歯製作術式を説明出来る。 3. 印象採得や顎間関係の記録を説明できる。 <b>[必修11-ケ-e][各論Ⅳ-5-イ-a, b]</b>  事前学修：全部床義歯製作術式や印象採得や顎間関係の記録について教科書と4年の講義資料を確認し、疑問点を整理しておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。
講義	6/9 (火)	4	米澤 悠助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>有床義歯学2 部分床義歯学①</b>  部分床義歯に必要な知識を整理して床義歯製作手法を理解する。	1. 部分床義歯の各操作の目的を説明できる。 2. 部分床義歯製作術式を説明出来る。 3. サベイングについて説明できる。 4. レスト、大連結子、隣接面板を説明できる。 <b>[必修11-ケ-e][各論Ⅳ-4-ア][各論Ⅳ-4-ウ-c, d]</b>  事前学修：部分床義歯製作、構成要素について、4年時の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハ ビリテーション学分 野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/1 (火)	3	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分 野)	<b>有床義歯学3 部分床義歯学②</b>  部分床義歯の支台装置 の種類、構造を理解す る。 フレームワークの特徴 と製作方法を理解す る。	1. 支台装置の種類、特徴を説明でき る。 2. フレームワークの特徴と製作方法 を理解する。 <b>[各論IV-4-ウ-d]</b>  事前学修：支台装置、フレームワー ク製作について、4年次の有床義歯 補綴学で使用したレジメ、講義ノー トに目を通して講義に臨むこと。事 前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書を用いて事後学修を行うこ と。学修の時間は平均30分を要す る。
講義	9/18 (金)	4	米澤悠助教 (歯科補綴学講座 有 床義歯・口腔リハビ リテーション学分 野)	<b>有床義歯学4 全部床義歯学②</b>  全部床義歯製作におけ る人工歯の排列とろう 義歯試適を理解する。	1. 人工歯の選択を説明できる。 2. 前歯部人工歯の排列を説明でき る。 3. 臼歯部人工歯の排列を説明でき る。 <b>[各論IV-5-ウ-b, c]</b>  事前学修：義歯製作における人工歯 の選択、人工歯の排列について、4 年次の有床義歯補綴学で使用したレ ジメ、講義ノートに目を通して講義 に臨むこと。事前学修の時間は平均 30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書を用いて事後学修を行うこ と。学修の時間は平均30分を要す る。

講義	12/8 (火)	4	佐藤宏明講師 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>有床義歯学5</b> 床義歯製作に必要な埋没・重合・研磨の方法を理解する。 義歯装着と調整を理解する。	1. 床義歯の埋没・重合・研磨の方法を説明出来る。 2. 埋没・重合・研磨の手順を説明出来る。 3. 義歯装着と調整を説明できる。 [各論IV-4-ウ-f][各論IV-5-ウ-d]  事前学修：義歯製作における埋没と重合、義歯装着と調整について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。
講義	12/15 (火)	3	原総一朗助教 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>有床義歯学6</b> 義歯装着後の変化と対応、義歯修理を理解する。	1. 義歯装着後の口腔内の変化について説明できる。 2. リベースとリラインの違いを説明できる。 3. 義歯修理について説明できる。  [各論IV-8-オ-b, c, d, e]  事前学修：義歯製作における義歯装着後の変化について、4年次の有床義歯補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書を用いて事後学修を行うこと。学修の時間は平均30分を要する。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：冠橋義歯・口腔インプラント学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/28 (火)	4	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>冠橋義歯学1 クラウン・ブリッジの 治療の流れ</b>  クラウン・ブリッジの 臨床の手順について理 解する	1. 診療室と技工室での治療の流れを 理解する。 2. 診療室と技工室で使用する機器や 材料の特性を理解する。 [総論：Ⅶ-2-ア-d~e]  アクティブラーニング：ディスカッ ション方式を取り入れた講義を行 う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる 領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴 学で使用したレジメ、講義ノートに 目を通して講義に臨むこと。所要時 間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	6/16 (火)	2	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>口腔インプラント学1</b>  インプラント治療の流 れを理解する。	1. インプラントの基本構造を理解 し、治療の検査方法と診断について 説明できる 2. インプラント治療で用いる材料に ついて説明できる [各論：Ⅳ-ア-a~c、イ-a, b、ウ- a, b] 事前学習：口腔インプラント学で使 用したレジメ、講義ノートに目を通 して講義に臨むこと。所要時間45分 程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。
講義	6/30 (火)	4	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>口腔インプラント学2</b>  インプラント外科につ いて治療の流れを理解 する。	1. インプラント1次手術および2次手 術の術式を理解し、一連の外科処 置の流れを説明できる。 2. インプラント外科に必要な器具、 材料を列挙できる。 [各論：Ⅳ-ア-a~c、イ-a, b、ウ- a, b]  事前学習：口腔インプラント学で使 用したレジメ、講義ノートに目を通 して講義に臨むこと。所要時間45分 程度。 事後学修：理解が不十分であった箇 所について、講義資料や教科書を用 いて知識を整理しておくこと。所要 時間45分程度。

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	深澤 翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/1 (火)	1	齊藤裕美子助教 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>冠橋義歯学2 鋳造法によるクラウン製作</b>  クラウン・ブリッジのワックスアップについて理解する。	1. クラウンの鋳造法による製作の特徴を説明できる。 2. クラウンのワックスパターン形成を説明できる。 <b>[各論：IV-U-a, c]</b>  アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	9/15 (火)	4	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>口腔インプラント学3</b>  インプラント補綴について治療の流れを理解する。	1. インプラント治療における補綴処置の流れを説明できる。 2. インプラント補綴に必要な器具、材料を列挙できる。 3. 口腔内スキャナーの活用法について説明できる。 <b>[各論：IV-6-A-a~c、ウ-b~g、エ-a~d]</b>  事前学修：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

講義	11/10 (火)	2	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>冠橋義歯学3</b> クラウン・ブリッジの接着  クラウン・ブリッジ接着について理解する。	1. クラウン・ブリッジ補綴に使用する材料と表面処理について理解する。 2. セメントの種類と特徴を理解する。 <b>[各論：IV-6-ア、イ-j]</b> アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間45分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	11/17 (火)	3	深澤翔太准教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>冠橋義歯学4</b>  CAD/CAM冠と光学印象 CAD/CAM冠と光学印象について理解する。	1. CAD/CAM冠の製作法を理解する。 2. 光学印象を理解する。 <b>[各論：IV-イ-d, f、ウ-b]</b>  アクティブラーニング：ディスカッション方式を取り入れた講義を行う。 ICT：講義前後に講義内容に準じる領域のDESS演習を行うこと。 事前学修：クラウン・ブリッジ補綴学で使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/15 (火)	1	福德暁宏講師 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>口腔インプラント学4</b>  インプラントのメンテナンスと合併症について理解する。	1. メンテナンスの重要性と方法を理解する。 2. インプラント周囲粘膜炎、インプラント周囲炎の特徴と治療法を説明できる。 <b>[各論：IV-ア-a~c、]</b>  事前学修：4年次に使用した教科書、レジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	今一裕教授 (冠橋義歯・口腔インプラント学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅱ）講義日程表：摂食嚥下・訪問・高齢者歯科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/26 (火)	3	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>摂食嚥下リハビリテーション①</b>  摂食嚥下のメカニズムと摂食・嚥下障害の検査法と診断を理解する。	1. 摂食嚥下のメカニズムを説明できる。 2. 摂食嚥下の5期モデルについて説明できる。 3. 摂食嚥下障害のスクリーニングテストについて説明できる。 4. 摂食嚥下障害の精密検査について説明できる。  [総論Ⅱ-6-エ-a, b][総論Ⅱ-7-ウ-a][総論Ⅴ-5-ア, イ][各論Ⅴ-1-ウ-c]  事前学修：老年歯科医学 p 299～325、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 2～156を読み、疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。
講義	7/14 (水)	2	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>摂食嚥下リハビリテーション②</b>  摂食嚥下障害に対する口腔衛生管理と治療法を理解する。	1. 高齢者の口腔健康管理について説明できる。 2. 摂食嚥下障害患者に対する口腔衛生管理を説明できる。 3. 摂食嚥下障害患者に対する姿勢調整を説明できる。 4. 摂食嚥下障害患者に対する食事介助を説明できる 5. 摂食嚥下障害患者に対する食形態の調整を説明できる。  [必修11-イ-b][各論Ⅴ-1-ウ-c][各論Ⅴ-1-オ]  事前学修：老年歯科医学 p 212～357、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 182～195、p 196～212を読み、疑問点を500字程度にまとめ発表できるようにしておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/18	3	小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)	<b>摂食嚥下リハビリテーション③</b>  摂食嚥下障害患者に対する診察、診断に必要な検査を理解する。それぞれの検査の目的を理解する。 摂食嚥下障害を持つ患者への対応を理解する。	1. 摂食嚥下障害の原因となる疾患について説明できる。 2. 摂食嚥下障害患者に対する診察、診断に必要な検査について説明できる。 3. 治療的アプローチを説明できる。 4. 代償的アプローチを説明できる。  <b>[総VII-6-イ-a][各論V-1-ウ-c][各論V-1-オ][各論V-3-ア-b][各論V-7-アイウエオ]</b>  事前学修：老年歯科医学 p 353～372、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 214～233 老年歯科医学 p 262～298を読み、よくわかる高齢者歯科学 P186-208を読み、疑問点を抽出しておくこと疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。

講義	11/24 (火)	2	<p>小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)</p> <p><b>摂食嚥下リハビリテーション④</b></p> <p>摂食嚥下障害を持つ患者への対応を理解する。 摂食嚥下障害患者に対する診察から治療計画の立案法を理解する。</p>	<p>1. 摂食嚥下障害に対する診断および対応について説明できる。 2. 多職種による様々な対応の連携について説明できる。 3. 治療計画の立案ができる。</p> <p><b>[総Ⅶ-6-イ-a][各論Ⅴ-1-ウ-c][各論Ⅴ-1-オ][各論Ⅴ-2-ア-ab][各論Ⅴ-3-ア-b][各論Ⅴ-7-アイウエオ]</b></p> <p>事前学修：老年歯科医学 p 353～372、歯学生のための摂食嚥下リハビリテーション学 p 214～233 老年歯科医学 p 262～298を読み、よくわかる高齢者歯科学 P186-208を読み、疑問点を抽出しておくこと疑問点をまとめておくこと。各授業に対する事前学修の時間は平均30分を要する。 事後学修：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。各授業に対する事後学修の時間は平均30分を要する。</p>
----	--------------	---	--	---

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	<p>小林琢也教授 (歯科補綴学講座 有床義歯・口腔リハビリテーション学分野)</p>	<p><b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：口腔外科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/28 (火)	2	山田浩之教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>炎症</b>  炎症の概念を理解し、 歯性感染症に関する知 識を習得する。	1. 顎口腔の炎症の症状、診断法、治 療法を説明する。 2. 歯性感染症の概念と感染経路を説 明する。 3. 顎骨骨髓炎の症状、経過、治療法 について説明する。 [総論Ⅲ-1-カ, 各論Ⅲ-1-ウ, 2- エ, 3-ア-d, e]  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬 出版P122～172を読み、疑問点を抽 出しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学 修：ポストテストで理解が不十分で あった箇所について、講義資料や教 科書を用いて知識を整理しておくこ と。所要時間45分程度。
講義	5/19 (火)	2	平野大輔講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>嚢胞・良性腫瘍</b>  口腔顎顔面領域に発生 する嚢胞・良性腫瘍の 分類、発生病因、診 断、治療法を習得す る。	1. 顎骨および軟組織に発生する嚢 胞・良性腫瘍を説明する。 2. 顎骨および軟組織に発生する嚢 胞・良性腫瘍の治療法を説明する。 [総論Ⅲ-1-ケ, コ, 各論Ⅲ-2-オ, カ, キ, 3-ア-f, g]  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬 出版P233～269、305～334、405～ 413を読み、疑問点を抽出しておく こと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	6/30 (火)	3	古城慎太郎講師 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>顎変形症</b>  顎変形症の症状、診 断、治療法を習得す る。	1. 顎変形症の概念と成因について説 明する。 2. 顎変形症を説明する。 3. 顎変形症の治療法を説明する。 [各論Ⅲ-2-ア, イ]  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出 版P81～87、596～633を読み、疑問 点を抽出しておくこと。所要時間30 分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/8 (火)	3	太田藍里助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>唾液腺疾患</b>  唾液腺疾患の症状、診 断、治療法を習得す る。	1. 唾液腺の炎症性疾患を説明する。 2. 唾液腺の腫瘍性疾患を説明する。 3. 唾液腺の閉塞性を説明する。 <b>[各論Ⅲ-3-ア]</b>  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出 版P376～430を読み、疑問点を抽出 しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	11/4 (水)	2	川井 忠准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>外傷</b>  口腔顎顔面領域に見ら れる損傷の概念、症 状、治療について習得 する。	1. 軟組織損傷を分類し、それぞれ の症状、治療法および治癒過程を説 明する。 2. 歯の損傷の種類と特徴、治療法 および治癒過程を説明する。 3. 一般的な骨折の種類と特徴、治 療法および治癒過程を説明する。 <b>[各論Ⅲ-1-イ, 2-ウ]</b>  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬 出版P88～121を読み疑問点を抽出し ておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。

講義	11/10 (火)	2	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>悪性腫瘍</b>  顎口腔領域に発生する 悪性腫瘍に関する知識 を習得する。	1. 顎口腔領域の悪性腫瘍の臨床症 状を説明する。 2. 顎口腔領域の悪性腫瘍の治療、 予後について説明する。 <b>[各論Ⅲ-1-カ, キ, 3-ア-h]</b>  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬 出版P213～232、414～424、634～ 691を読み、疑問点を抽出しておく こと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	12/8 (火)	3	川又慎介助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>顎関節疾患</b>  顎関節疾患の症状、診 断、治療法を習得す る。	1. 顎関節症の概念と成因を説明でき る。 2. 顎関節症の分類と治療法を説明で きる。 3. その他の顎関節疾患を説明でき る。 <b>[各論Ⅲ-3-ウ]</b>  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬出 版P335～375を読み疑問点を抽出し ておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。
講義	1/5 (火)	2	秋本祐基助教 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>口腔粘膜疾患</b>  口腔粘膜疾患の症状、 診断、治療法を習得す る。	1. 口内炎やアフタの症状、治療法に ついて説明する。 2. 水疱性疾患、ウイルス性疾患の症 状、治療法について説明する。 3. 角化性疾患、色素沈着などの口腔 粘膜疾患の症状について説明する。 <b>[各論Ⅲ-1-ク, 4-イ, エ, オ]</b>  事前学修：口腔外科学第4版医歯薬 出版P173～212を読み、疑問点を抽 出しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：ポストテストで理解が不 十分であった箇所について、講義資 料や教科書を用いて知識を整理して おくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	大橋祐生准教授 (口腔顎顔面再建学 講座 口腔外科学分 野)	<b>総合講義 (I) 後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯科麻酔学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/30 (火)	2	坂野上和奏助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科治療時の偶発症</b> 局所麻酔薬投与時の偶 発症とそのメカニズム を理解する。	1. 局所麻酔時の局所的偶発症を説明 できる。 2. 局所麻酔薬及び歯科治療時の全身 的偶発症を説明できる。(血管迷走 神経反射、過換気症候群、アナフィ ラキシーショック、局所麻酔薬中 毒、血管収縮薬に対する反応、メト ヘモグロビン血症) 3. ショックを説明できる。 4. 局所麻酔時の内科的疾患の増悪を 説明できる。(狭心症発作、脳血管 障害、低血糖性昏睡、不整脈、仰臥 位低血圧症候群) <b>[各論Ⅲ-4-ソ、各論-V-2-エ]</b> 事前学習：局所麻酔投与時の全身的 偶発症について永末書店 第6版 臨 床歯科麻酔学、4年次に使用したレ ジュメ、講義ノートに目を通して講 義に臨むこと。事前学習の時間は最 低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。
講義	7/21 (火)	3	坂野上和奏助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>精神鎮静法</b> 精神鎮静法の特徴を理 解する。	1. 精神鎮静法の概念、目的、適 応、禁忌、種類、実施法を説明でき る。 2. 笑気吸入鎮静法を説明できる。 3. 静脈内鎮静法及びその使用薬剤を 説明できる。 <b>[総論Ⅶ-4-ウ-c]</b> 事前学習：精神鎮静法の特徴につい て永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学 4年次に使用したレジュメ、講義 ノートに目を通して講義に臨むこ と。事前学習の時間は最低40分以上 を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/8 (火)	4	坂野上和奏助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>全身麻酔法</b>  全身麻酔法と全身麻酔 薬を理解する。	1. 全身麻酔薬の理論、概念、機序 を説明できる。 2. 全身麻酔に使用する装置、器 具、回路を説明できる。 3. 全身麻酔における気道確保法を 説明できる。 4. 全身麻酔薬の種類と特徴を説明 できる。 5. 麻酔前投薬、筋弛緩薬の種類と 薬理作用を説明できる。 <b>[総論VII-4-ウ-b]</b> 事前学習：全身麻酔法および麻酔薬 について永末書店 第6版 臨床歯科 麻酔学、4年次に使用したレジュ メ、講義ノートに目を通して講義に 臨むこと。事前学習の時間は最低40 分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分 であった箇所については、講義資料 や教科書等を用いて事後学修を行う こと。事後学修の時間は40分以上を 要する。

講義	11/24 (火)	4	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>歯科麻酔学5 ペインクリニック</b>  顎口腔領域の疼痛性および麻痺性疾患を学ぶことで疼痛管理の重要性を理解することができる。	1. 顎顔面口腔領域の疼痛及び麻痺性疾患を説明できる。 2. 三叉神経痛の概念、症状及び治療法を説明できる。 3. 顔面神経麻痺の概念、症状及び治療法を説明できる。 4. 星状神経節ブロックの適応、方法及び合併症を説明できる。 <b>[各論-Ⅲ-3-イ]</b> 事前学習：精神鎮静法の特徴について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。[E-1-4)-(3)]
講義	1/5 (火)	4	坂野上和奏助教 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>救急蘇生法</b>  救急蘇生法(BLS)を理解する。	1. バイタルサインを説明できる。 2. 成人の1次救命処置を説明できる。 3. 自動体外式除細動器を説明できる。 4. 小児の1次救命処置を説明できる。 5. 異物による気道閉塞とその解除法を説明できる。 <b>[必須10、総論Ⅶ-3]</b> 事前学習：救急蘇生法について永末書店 第6版 臨床歯科麻酔学、4年次に使用したレジュメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。事前学習の時間は最低40分以上を要する。 事後学習：復習試験で理解が不十分であった箇所については、講義資料や教科書等を用いて事後学修を行うこと。事後学修の時間は40分以上を要する。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	佐藤健一教授 (口腔顎顔面再建学 講座 歯科麻酔学分 野)	<b>総合講義 (I) 後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（I）講義日程表：歯科放射線学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	4/21 (火)	3	佐藤 仁助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>画像診断まとめ1</b> 口腔領域の画像診断について学習する。	1. 嚢胞性病変を列挙できる。 2. 腫瘍性病変を列挙できる。 3. 炎症性疾患を列挙できる。 4. 上記病変の画像所見を列挙できる。 【E-1-2, ①~⑨】 事前学修：3年次履修の際のレジюме、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。
講義	6/16 (火)	4	佐藤 仁助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>画像診断まとめ1</b> 口腔領域の画像診断について学習する。	1. 嚢胞性病変を列挙できる。 2. 腫瘍性病変を列挙できる。 3. 炎症性疾患を列挙できる。 4. 上記病変の画像所見を列挙できる。 【E-1-2, ①~⑨】 事前学修：3年次履修の際のレジюме、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	※	※	佐藤 仁助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>総合講義（I） 前期試験解説講義</b> 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 【出題された問題による】 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 【国家試験出題基準】 事前事後学修
講義	9/8 (火)	2	田中良一教授 (放射線医学講座)	<b>胸部X線画像</b> (教科書p449) 胸部X線検査は歯科麻酔手術の術前検査にも広く利用される検査である。基本的正常像および異常像の典型を理解する。	1. 胸部X線写真の撮影法を述べることができる。 2. 胸部X線写真の正常解剖像を述べることができる。 3. 胸部X線写真の異常像を列挙できる。 【D-2-5-9】

講義	11/4 (水)	4	佐藤 仁助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>画像診断まとめ2</b> 口腔領域の画像診断について学習する。	1. CT、MRI、US、RI検査を説明できる。 2. 各疾患の画像検査所見を検査種毎に列挙、説明できる。 3. 放射線領域の一般、臨床実地問題に必要な知識を列挙できる。 <b>[E-1-2, ①~⑨]</b> 事前学修：3年次履修の際のレジюме、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。
講義	12/15 (火)	2	泉澤充特任教授 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>放射線治療</b> 口腔癌の放射線治療の種類、適応について習得する。	1. 放射線の治療法を列挙し、適応について説明できる。 2. 治療時の口腔管理について説明できる。 3. 放射線治療に関連した各種問題に解答できる。 <b>[D-3-6-3]</b> 事前学修：3年次履修の際のレジюме、事前事後学修テストを事前に見直ししておく。 事後学修：webclass上の復習テストに解答しアップロードする。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 <b>[国家試験出題基準]</b> 事前事後学修
講義	※	※	佐藤 仁助教 (口腔顎顔面再建学講座 歯科放射線学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b> 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：歯科矯正学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	5/19 (火)	3	深澤慶子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>歯科矯正学1 頭蓋顎顔面の成長発育</b>  口腔と頭蓋顎顔面の成長発育について理解する。	1. 口腔の発生について説明できる。 2. 頭蓋骨の成長について説明できる。 3. 鼻上顎複合体の成長について説明できる。 4. 下顎骨の成長について説明できる。 <b>[必修V-ウ-a, b、総論IV-2-ウ]</b>  事前学修：歯科矯正学p15～p44を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	7/21 (火)	4	上田 茜助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>歯科矯正学2 矯正歯科治療における診断</b>  矯正診断用の口腔模型およびエックス線セファロ写真と機能分析の意義・分析法について理解する。	1. 口腔模型について説明できる。 2. セットアップモデルについて説明できる。 3. 画像検査について説明できる。 4. 機能検査について説明できる。 <b>[各論I-6]</b>  事前学修：歯科矯正学p145～p176を読み、疑問点を抽出しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義内容で理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/15 (火)	3	吉田弘法助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>歯科矯正学3 矯正歯科治療における 抜歯と固定</b>  矯正歯科治療における 抜歯と固定の必要性に ついて理解する。	1. 矯正歯科治療における抜歯の目的 について説明できる。 2. Tweedの抜歯基準について説明で きる。 3. Tooth size ratioについて説明で きる。 4. 矯正歯科治療における固定につい て説明できる。 <b>[各論 I-6-ウ、各論 I-10-ウ]</b>  事前学修：歯科矯正学p151, p182～ p188, p200～p201を読み、疑問点を 抽出しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：講義内容で理解が不十分 であった箇所について、講義資料や 教科書を用いて知識を整理しておく こと。所要時間45分程度。
	11/4 (水)	3	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>歯科矯正学4 器械的矯正装置と機能的 矯正装置</b>  器械的矯正装置と機能的 矯正装置の種類、構 造、特徴について理解 する。	1. 器械的矯正装置と機能的矯正装 置の基本的条件および分類について 説明できる。 2. 器械的矯正装置と機能的矯正装 置の構造を説明できる。 3. 器械的矯正装置と機能的矯正装 置の力系を説明できる。 4. 各装置の使用目的を説明でき る。 <b>[D-5-5-4]</b> 事前学修：歯科矯正学p151, p182～ p188, p200～p201を読み、疑問点を 抽出しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：講義内容で理解が不十分 であった箇所について、講義資料や 教科書を用いて知識を整理しておく こと。所要時間45分程度。
講義	12/22 (火)	3	浅沼莞奈助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>歯科矯正学5 矯正歯科治療のフォー スシステム</b>  矯正力と顎整形力につ いて理解する。	1. 矯正力の大きさ与作用様式につい て説明できる。 2. 矯正力と顎整形力について説明で きる。 3. マルチブラケット装置における矯 正力について説明できる。 <b>[各論 I-7、各論 I-9-ウ]</b>  事前学修：歯科矯正学p195～ p199, p229～p239を読み、疑問点を 抽出しておくこと。所要時間30分程 度。 事後学修：講義内容で理解が不十分 であった箇所について、講義資料や 教科書を用いて知識を整理しておく こと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	菊池恵美子助教 (口腔保健育成学講座 歯科矯正学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：小児歯科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	6/16 (火)	3	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>全身の成長・発達 歯の発育と異常</b>  小児の全身の発達・顔面頭蓋の成長・発達、歯の発生・発育・萌出とその障害の機構について多角的に理解する。	1. 小児の身体の成長を説明できる。 2. 小児の精神の発達を説明できる。 3. 頭蓋の成長発育を説明できる。 4. 顔面の成長発育を説明できる。 5. 小児の口腔機能の発達について説明できる。 6. 乳歯並びに永久歯の発生、形成時期、萌出順序を説明できる。 7. 歯の発生の各ステージにおける異常と症状の関連性を説明できる。 <b>[必修5-イ-a~c, 必修5-ウ-a~b, 総論Ⅱ-7-ア-a~c, 総論Ⅱ-7-イ-a~c, 各論Ⅰ-2-ア, イ, ウ]</b>  事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	7/7 (火)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>小児期の齲蝕治療</b>  小児期の齲蝕や歯髄疾患の特徴を多角的に理解する。	1. 乳歯齲蝕の特徴と治療方法について説明できる。 2. 歯髄炎の診断法を説明できる。 3. 生活歯髄切断法を説明できる。 4. 暫間的間接覆髄法を説明できる。 5. 根未完成歯の歯内療法を説明できる。 <b>[総論Ⅳ-2-ア, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅱ-1-エ-a~d, 各論Ⅱ-2-ウ-a~d]</b> 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

## 前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/15 (火)	2	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>小児への対応法 特別な配慮が必要な小児への歯科治療</b>  小児患者や障害児の特徴、歯科治療の際の正しい対応法を理解する。	1. 小児の恐れや不安の対象を列挙できる。 2. 小児の情動に配慮した対応法を説明できる。 3. 発達障害の特性について説明できる。 4. 障害児の特徴に配慮した対応法を説明できる。 5. 行動変容法を説明できる。 6. 全身疾患を持つ小児の口腔内について述べるができる。 <b>[必修11-ス-b, 総論Ⅲ-2-ア-g, 総論Ⅲ-2-イ-a~b, 各論Ⅰ-1-イ-c~f, 各論Ⅰ-1-ウ-c, 各論Ⅰ-1-エ-a~b]</b> 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

講義	11/17 (火)	1	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>小児期の歯周疾患と静的咬合誘導</b> 小児期の歯周疾患特徴と静的咬合誘導について多角的に理解する。	1. 小児の健全な歯周組織の特徴を列挙できる。 2. 小児と成人の歯周疾患の違いを説明できる。 3. 保隙を行う際の診断基準を症例に応じて説明できる。 4. 診断に基づいた適切な保隙装置の選択法を症例に応じて説明できる。 <b>[総論Ⅳ-2-イ, 総論Ⅶ-1-ウ-a, 各論Ⅰ-10-ア-a, 各論Ⅱ-3-エ-a~b]</b> 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。
講義	12/1 (火)	3	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>小児の外傷・口腔粘膜疾患</b> 小児の歯の外傷や口腔粘膜疾患を多角的に理解する。	1. 小児の歯の外傷の疫学的特徴を説明できる。 2. 小児の歯の外傷の診査と診断について説明できる。 3. 小児の歯の外傷に対する的確な対応法を説明できる。 4. 小児の口唇の疾患を列挙できる。 5. 小児の舌の疾患を列挙できる。 6. 小児の歯肉の疾患を列挙できる。 <b>[各論Ⅰ-4-ア~オ, 各論Ⅰ-3-イ-a~e, 各論Ⅰ-3-ウ-a~e, 各論Ⅲ-1-ア-c~d,]</b> 事前学習：ユニット名に該当する項目について教科書、4年次に使用したレジメ、講義ノートに目を通して講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義やポストテストで理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。 アクティブラーニング：講義中に教員とのディスカッションの機会を設ける。

## 後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	齊藤桂子講師 (口腔保健育成学講 座 小児歯科学・障害 者歯科学分野)	<b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：障害者歯科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	2	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>障がい者歯科1 各論復習1</b>  各障害の特徴と行動調整を理解する。	1. 行動調整 2. 各障害者（知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、脳性麻痺、てんかんなど）について説明できる。 [必修11イa・b・c、総論I2カc、総論V2オa・b・c、総論V3ア、イa・b・c・d、ウ、エ、オ、カ、総論V6アg、総論VII1オ、各論V2オ、各論V8アa・b、イa・b・c、ウ、エ] 事前学修：教科書p40～63とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/29 (火)	3	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>障がい者歯科2 各論復習 2</b>  各障害の特徴と行動調整を理解する。	1. 行動調整 2. 各障害者 (知的能力障害、自閉スペクトラム症、注意欠如・多動症、限局性学習症、脳性麻痺、てんかんなど) について説明できる。 [必修11イa・b・c、総論I2カc、総論V2オa・b・c、総論V3ア、イa・b・c・d、ウ、エ、オ、カ、総論V6アg、総論VII1オ、各論V2オ、各論V8アa・b、イa・b・c、ウ、エ] 事前学修：教科書p40～63とp208～244を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	12/15 (火)	4	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>障がい者歯科3 症候群復習</b>  障害者歯科で取り扱う症候群について理解する。	1. 口腔・顎顔面の発育を障害する先天異常の病態・特徴を説明できる。 2. 主として全身に関連する疾患の病態・特徴を説明できる。 [各論I1イa・b・c・d・e、ウa・b・c・d・e、Ia・b、各論III4アa・b・c・d・e・f・g・h・i・j・k・l・m・n・o] 事前学修：教科書pp168～200を読んで疑問点を整理しておくこと。所要時間30分程度。 事後学修：理解が不十分であった箇所について、講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	磯部可奈子助教 (口腔保健育成学講座 小児歯科学・障害者歯科学分野)	<b>総合講義 (I) 後期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

## 総合講義（Ⅰ）講義日程表：関連医学・内科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	5	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>内科学Ⅰ</b> <b>循環器疾患、悪性新生物</b>  代表的な循環器疾患、 悪性新生物について理 解する。	1. 代表的な循環器疾患、悪性新生物 について理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-b, j][各 論Ⅲ4-ス-b][各論V2-エ-c]  事前学修：講義に関する内容を講義 資料および教科書（歯科医師のため の内科学）で確認し講義に臨むこ と。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用い て知識を整理しておくこと。所要時 間45分程度。
講義	7/7 (火)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>内科学Ⅱ</b> <b>呼吸器疾患、消化器疾 患</b>  代表的な呼吸器疾患、 消化器疾患について理 解する。	1. 代表的な呼吸器疾患、消化器疾患 について理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-a, c][各 論Ⅲ4-ス-a, c][各論V2-エ-b, d]  事前学修：講義に関する内容を講義 資料および教科書（歯科医師のため の内科学）で確認し講義に臨むこ と。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用い て知識を整理しておくこと。所要時 間45分程度。

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>総合講義（Ⅰ）</b> <b>前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領 域を抽出し、復習する ことで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じ たことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に 関連する内容を教科書等で調べて理 解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	11/17 (火)	4	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>内科学Ⅲ 代謝・内分泌、血液疾患</b>  代表的な代謝・内分泌、血液疾患について理解する。	1. 代表的な代謝・内分泌、血液疾患について理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-d, h][各論Ⅲ4-ス-d, h][各論V2-エ-e, i]  事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。
講義	1/5 (火)	3	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>内科学Ⅳ 腎疾患、精神疾患</b>  代表的な腎疾患、精神疾患について理解する。	1. 代表的な腎疾患、精神疾患について理解し説明できる。 [必修11-ス-b][総論V6-ア-e, f][各論Ⅲ4-ス-e, f][各論V2-エ-f, g]  事前学修：講義に関する内容を講義資料および教科書（歯科医師のための内科学）で確認し講義に臨むこと。所要時間30分程度。 事後学修：講義資料や教科書を用いて知識を整理しておくこと。所要時間45分程度。

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	千葉俊美教授 (口腔医学講座 関連 医学分野 内科学)	<b>総合講義（Ⅰ） 前期試験解説講義</b>  試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出題された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

総合講義（Ⅰ）講義日程表：衛生学・公衆衛生学・予防歯科学・社会歯科学

前期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	4/14 (火)	3	岸 光男客員教授  佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>疫学・保健統計学</b>  疫学の基本的考え方を学ぶことで、診療、地域補年に対する論理的な方略を策定できるようになる。	1. 疫学の研究方法を列挙できる。 2. リスク指標を算出できる。 3. EBMを概説できる。 4. 基本統計量を列挙できる。 5. 統計学的検定の原理を説明できる。 6. 主な口腔の疫学指標を算出できる。 7. 主な保健医療統計調査を列挙できる。 8. 人口統計を概説できる。  [必修9-ク-a~d、総論Ⅰ-6-ア~ウの小項目すべて]  事前学修：2年次衛生・公衆衛生学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。
講義	5/12 (火)	3	岸 光男客員教授  佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防 歯科学分野)	<b>医療関連法規</b>  医療関連法規を学ぶことで、臨床における歯科医師の役割を理解することができる。	1. 医療法を概説できる。 2. 医療計画を概説できる。 3. 医療機関の種類を列挙できる。 4. 歯科医師法による歯科医師の義務を列挙できる。 5. 歯科衛生士法、歯科技工士法を概説できる。 6. 医薬品、医療機器等法が定める項目を列挙できる。  [必修2-イ-a, b, d、カ-a, g、総論Ⅰ-エ-a, e, h、オ-a, b, g, h, j]  事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

講義	6/2 (火)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>保健関係法規</b> 保健、衛生関係法規を学ぶことで地域保健の仕組みを理解する。	1. 健康増進法が規定する事項を列挙できる。 2. 地域保健法が規定する事項を列挙できる。 3. 歯科口腔保健の推進に関する法律を概説できる。 4. 感染症法、予防接種法、検疫法を概説できる。  [必修2-イ-a, b, e、必修3-ア-f、必修3-イ-a、総論 I-1-エ-b, d、総論 I-1-オ-a, b, f]  事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出题されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。
----	------------	---	----------------------------	--	--

前期：解説講義

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>総合講義 (I) 前期試験解説講義</b> 試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。	各試験問題を解説できる。 [出題された問題による] 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出题された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

後期：

区分	月日 (曜)	時限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	9/1 (火)	2	岸 光男客員教授  佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<b>地域保健総論</b> 地域保健の基本概念と根幹となる法規を学ぶことで地域保健の意義を理解することができる。	1. プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションの違いを説明できる。 2. 保健所の業務を列挙できる。 3. 健康増進法を概説できる。 4. 地域保健法を概説できる。  [必修3-ア-a~d、イ-a, g, h、総論 1-エ-b, d, j、オ-a~j]  事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出题されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。

講義	11/10 (火)	3	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<p><b>地域保健各論</b></p> <p>異なる対象集団に対する保健介入方法を学ぶことで、地域保健に関する応用性を身につけることができる。</p>	<p>1. 母子保健・母子歯科保健を概説できる。 2. 学校保健・学校歯科保健を概説できる。 3. 産業保健・産業歯科保健を概説できる。 4. 成人保健・成人歯科保健を概説できる。 5. 地域包括ケアシステムと地域支援事業の関係を説明できる。</p> <p><b>[必修3-イ-b～e、総論 I-2-ア～カの小項目すべて]</b></p> <p>事前学修：3年次社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。</p>
講義	12/1 (火)	2	岸 光男客員教授  佐藤俊郎准教授 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<p><b>社会保障</b></p> <p>社会保障制度と国民医療費を理解することで適切な保険診療を提供することができるようになる。</p>	<p>1. 社会保障の分類を列挙できる。 2. 医療保険制度を概説できる。 3. 公費医療制度を列挙できる。 4. 介護保険制度を概説できる。 5. 国民医療費を概説できる。</p> <p><b>[必修2-イ-e, g、総論 I-1-ウ-a～d、エ-c, g, j、総論 I-4-ア-a, b]</b></p> <p>事前学修：3年時社会と歯学の教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出題されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。</p>

講義	1/12 (火)	2	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<p><b>う蝕と歯周病の予防</b></p> <p>う蝕と歯周病の発症機序を理解することで、根拠に基づいた疾病予防計画を策定することができるようになる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. う蝕のリスク因子を列挙できる。</li> <li>2. 歯周病のリスク因子を列挙できる。</li> <li>3. う蝕のリスク因子に対応する予防法を選択できる。</li> <li>4. う蝕のリスク評価法を列挙できる。</li> <li>5. 歯周病のリスク評価法を列挙できる。</li> <li>6. フッ化物によるう蝕予防機序を説明できる。</li> <li>7. 歯磨剤の薬用成分を列挙できる。</li> </ol> <p><b>[必修3-ウ-a~c、必修4-イ-b, c、各論Ⅱ-1 - イ-a~e、各論Ⅱ-3 - イ-a~e]</b></p> <p>事前学修：3年次DTPの教科書、資料の該当範囲を通読しておくこと。所要時間30分程度。講義中、適宜課題の呈示と質疑応答を行う。 事後学修：講義中に出题されたの課題等を復習する。所要時間45分程度。</p>
----	-------------	---	----------------------------	---	--

後期：解説講義

区分	月日 (曜)	時 限	担当教員 (講座 分野)	ユニット名 内容	到達目標 [国家試験出題基準] 事前事後学修
講義	※	※	大石泰子助教 (口腔医学講座 予防歯科学分野)	<p><b>総合講義 (I)</b> <b>後期試験解説講義</b></p> <p>試験結果を基に弱点領域を抽出し、復習することで理解を深める。</p>	<p>各試験問題を解説できる。 <b>[出題された問題による]</b> 事前学修：試験を通して疑問に感じたことを抽出しておくこと。 事後学修：試験に出题された問題に関連する内容を教科書等で調べて理解を深めること。</p>

※ 2026年度第5学年授業時間割の項に記載

教科書・参考書・推薦図書…予め指定する図書はありません。

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年

### 成績評価方法・基準・配点割合等

・定期試験は各科目を統合した総合試験とする。  
 ・総合試験（前期、後期）を90%、実力確認試験、週間復習試験および月間復習試験を10%として評価する。

#### 【前期総合試験と後期総合試験の点数配分】

前期：後期＝40%：50%

#### 【判定基準】

総合試験、実力確認試験、週間復習試験および月間復習試験の合計が65%以上を合格とする。

到達目標	DP	実力確認試験、週間復習試験、月間復習試験	前期試験	後期試験	合計
1)～18)	1,2,5,7,8,9	10	40	50	100
合計		10	40	50	100

### 特記事項・その他（試験・レポート等へのフィードバック方法・アクティブラーニングの実施、ICTの活用等）

講義資料は必要に応じてWebClassにアップロードする。事前および事後に当該科目のDESS演習を活用する。週間復習試験では前週に受講した講義内容についての習熟度の確認を、月間復習試験では該当月間に受講した講義内容を中心とした習熟度の確認を行う。

#### 【総合試験の受験資格1（出席）】

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる前期試験の受験資格を認める。

- ・前期の当該科目の出席（講義）が5分の4以上であること
- ・前期に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・前期に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること

以下の条件をすべて満たした場合に出席にかかる後期試験の受験資格を認める。

- ・後期の当該科目の出席（講義）が5分の4以上であること
- ・後期に実施される週間復習試験を5分の4以上受験していること
- ・後期に実施される月間復習試験を5分の4以上受験していること

#### 【総合試験の受験資格2（その他）】

以下の条件をすべて満たした場合に前期試験の受験資格を認める。

- ・実力確認試験を受験すること
- ・指定された演習（DESS等）を全て受講すること

以下の条件をすべて満たした場合に後期試験の受験資格を認める。

- ・大学主催の模擬試験を受験すること
- ・指定された演習（DESS等）を全て受講すること

当該科目に関連する実務教員の有無 … 有（大学病院等における医師や歯科医師の実務経験を有する教員が専門領域に関する実践的な教育を事例を交えて行う）

### 授業に使用する機械・器具と使用目的…特記すべき機械・器具等はありません。

使用機器・器具等の名称・規格	台数	使用区分	使用目的